

○11番（上野淑子君）〔登壇〕

おはようございます。最後の4日目、3日間の緊張の連続の中で迎えた4日目、本当に気を引き締めて私も一般質問をしていきたいなと思っております。

議長より登壇の許可を得ましたので、上野淑子11番、一般質問をいたしたいと思っております。

本当に3日間、いろんなことが論議されておりました。今、私の心に残ったことですが、子どもたちの心温まる学校での活動、そして進んでいくIT事業の関係、そしてまた、市長の海外での多大なる報告、そしてオリンピックを目指してのBMXの建設と、本当に明るい楽しい議題がいっぱいありました。

我が武雄市は、日本はもとより、世界でも一歩進んで注目されていると言われております。本当に今、動く我が市でエネルギーな武雄市、本当に私は誇りに思っております。

また、その反面、今、日本中でどこでも同じでしょうけれども、心を痛めるたくさんの方の問題もあります。その問題に関しても、私たちは前向きに力を合わせて、しっかり取り組んでいかなければならないと思っております。

きょうは、初めに問題を出しておりました教育についてでございます。

今までに、いじめについては、たくさんの方からの議論がなされてまいりました。皆様もいろいろお聞きになったと思っております。私のところにも、先日来、こんな話が来ました。「いじめについては、やっぱり興味持って聞きよっよ。そして、行政の取り組み、いろんな取り組みも議会での取り組みも聞いて、ちょっとね、安心した。武雄市は、こが子どもたちのことについて、これからの学校形成、しておられるんだなと聞いてね、ちょっと安堵したよ」という声も聞こえております。でも私は、またこのことについても質問をしていきたいと思っております。

まず初めにですけれども、現状については、今までも何人もの方に御報告がっておりますので、重複は避けたいと思っております。いろんな問題、これらのいじめについての多大な問題、ないとはいえ、あるこの問題について、一体どういうふうな対応策をなされているのか、お聞きしたいと思っております。

以上です。

○議長（杉原豊喜君）

浦郷教育長

○浦郷教育長〔登壇〕

おはようございます。答弁させていただきます。

いじめについては、多くの議員の方から御質問いただきまして、現状並びにこれからの対策等について御説明を申し上げてきたところでございますが、総合的に取り組みを振り返りまして、まずは未然防止、何ができるかということでございます。

これはやっぱり、いじめのない魅力のある学校であれば、子どもたちも喜んで登校するわ

けでありまして、そういう未然防止の点からの取り組み。それから2つ目は、あって当たり前の社会であります。子どもたちが集団でおれば、自然と発生するあつれきもあるわけがあります。したがって、それを早期発見して、早期対応をしていく、そういう体制づくり、これは学校内でもそうですし、家庭と一緒にということがありますし、ほかの機関と連携して、大きくは3つに分かれてこようかと思えますけれども、未然防止と早期発見、早期対応、その両面から考えていきたいというふうに思っております。

○議長（杉原豊喜君）

11番上野議員

○11番（上野淑子君）〔登壇〕

ありがとうございます。本当に未然防止、早期発見について、それぞれいろんなことをされていると思いますが、せんだってアンケートをとられたということで、アンケートの集計をいただきました。各学校のですね、17校ですかね。

その中で、先生方、今、教育長がおっしゃったように、先生方も本当に工夫していらっしゃるということは、このアンケートを見ただけでもわかりますので、ちょっとアンケートの紹介をしていきたいと思えます。みんなは言い切れませんので、題名だけです。

「心の相談アンケート」とか、それから「友達づくりアンケート」、真っすぐいじめのアンケートで、いじめはどうかこうかというような聞き方じゃなくて、本当に子どもの心に寄り添ったアンケートがつくられていて、ああ、すごいなと思えました。

それから、「学校生活を楽しくするアンケート」、それから本当に今の子どもたちの、何ていうんですか、お笑いじゃない、ギャグじゃないですけど、そういうことでも考えながら、いろんなこう名前がつけてあるんですよ。「心の扉」、それから「悩みを話すことは、放すこと」、解き放すことと話すこととか、だからこう気楽に子どもたちが、これを読みながらアンケートに対処していつているなあということ、先生方、本当に工夫していらっしゃるということが、これを見ただけでもよくわかります。

だから、現場の先生方は本当に大変な混雑の中に、いろんなことを抱えながらも、先ほど教育長がおっしゃったように早期発見、未然防止のためにいろんな努力をしていらっしゃると思えます。そのことについて、現場の先生方は、今、教育長から大きくは聞きました。現場の先生方はどういうふうに対処というか、心配りというか、このアンケートをとるときの仕方とか、どういうふうに対処されたかとか、その現場の声をちょっとお聞きしたいと思うんですが、いかがでしょうか。

○議長（杉原豊喜君）

浦郷教育長

○浦郷教育長〔登壇〕

申し上げましたように、大きくは未然防止と早期発見、早期対応ということで、例えば、

昭和60年でしょうか、武雄中学校では「いじめ追放宣言」などというものをされております。ずうっと掲示してあって、そういう学校一体となった取り組みというのが、そういう体制をつくるということが一番かなというふうに思っております。学校全体で保護者の皆さんの協力を得ながら、そういう体制をつくっていく。そういう体制づくりができるということが第一かなというふうに思っております。

そういう中で、やっぱり気になる子どもへの対応とか、前学年どうだったか、あるいは小さいときどうだったか、それらを含めた気になる子どもたちへの対応。それから、家庭環境が変わったり、あるいは学校が変わったり、そういう場合もあるわけでありまして。そういうのを含めて保護者の皆さんとの関係づくり、そして、少しでも直接子どもたちと向き合う時間をつくって心の交流ができる、そういう時間をつくるとかですね。

当然、生じる場合もあるわけでありまして、そういう突然の対応が体制としてできるかと、そういうことで先生方の、今、取り組んでいただいている対応の中で、そういうところが課題であり、取り組みの中心かなというふうに考えております。

○議長（杉原豊喜君）

11番上野議員

○11番（上野淑子君）〔登壇〕

本当に先生方の御苦労はよくわかります。元経験者として、本当に現場にいて、先生方の苦労、先生たちの悩みというのは、本当に手にとるようにわかります。今、IT関係で、教育自体がどんどんどんどん進んでいますが、教育とはやっぱり人間教育であるし、今、このいじめの問題、ここをしっかりと押さえていかなければならないと思います。

教育長がおっしゃったように、本当に突然の対応ということ、これもあり得ることですし、先生方、本当にここに先生方が代表で来ていただいて、いろんな声をお聞きしたら、誰でも納得するとは思いますが、じゃあ、本当に子どもと向き合う時間をつくっていく、そして子どもの変化を見抜いていく、そういう時間をとっていきたい、努力しているとおっしゃいましたけれども、そういう時間が果たしてあるものかなあ、ないものかなあ。

それから、また1つ投げかけられましたね、突然の対応はどうすればいいのかということのを課題にしているということですね。そこで、何が問題なのかなあと思っております。

昨日は、読書感想文は書かんでよか、そんな要らないものとは、こういろいろありましたが、あれは賛否両論あって、私も全く賛成ではありませんが。（笑声）現場はいろんな——現場はちょっと大変なんですよ。だから、今の教育長のお話なんかお聞きになられて、皆さん方も先生方がいかに忙しくて、時間を見つけられないでいるかということをお気づきになったと思いますが、そういうところを行政としてはどうしていけばいいと思っておりますか。

○議長（杉原豊喜君）

浦郷教育長

○浦郷教育長〔登壇〕

先生方が忙し過ぎるんじゃないかということは、これまでもこの議会におきましても、市長さん初めですね、いろんな方から話として出てきたところでございます。

これは当然、私どもも毎年、その勤務時間の状況というのを把握をしまして、市もそうですし、この杵西地区でも協議会を毎年立てて、そして改善できるところはということで、実際の先生方もその委員の中に入っていて、できることはやっていこうということで、ここ数年やってきつつあるところでございます。

例えば、ICTの話が出ますけれども、その1つの狙いが、やっぱり効率化できるところは徹底して効率化していこうということでありますので、職員会議も本当に以前としたり、かなり短時間になっているんじゃないかなと、連絡はもうほとんどパソコンで通じるということ。反面、これも話題になってきましたけれども、そしたら、直接先生たちが話し合う時間がないんじゃないかと、減るんじゃないかというようなことも片方には出てくるわけですので、効率化できる分は徹底して効率化して、本当に協議しなければいけないところをす。このICTの面での進展というのは非常に大きいものがあるだろうというふうに思います。

議員が現職にあられたころとしますと、かなり1学級の人数も多かったんじゃないかと思えます。御存じのとおり、小1、それから佐賀県の場合は小2まで35人以下になっております。36人になったら2つになるわけでありまして、2で割りますと三十六、七人だったら、もう十七、八人というような1学級もあるわけでございます。平均しますと、もう20人台、全県的に平均しますとそういう数値になってくるわけで、そういう面では物理的にも、時間的にも、子どもたちと触れ合う時間というのは、以前としたり、ふえているのかなという気はします。

よく文書が多過ぎるとか、教育委員会の指示も多過ぎるといような話もありますので、その辺も徹底してできるだけ減らしていつているつもりですけれども、今後もそういういろんな面から努力していきたいというふうに思っております。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

もう傍聴もいっぱいですね。

私事になるんですけどね、妹が小学校の教諭なんです。それでいろいろ話していて、もう10年以上先生をやっていて、ちょっと教育長と見解違うんですけども、子どもと向き合う時間がやっぱり相当減ったと、自分が新任のときと今と比べると相当減ったと。それはなぜかということ、きょうもブログにちょっと実は刺激的なことを書いたんですけどね、学校の先生から見ても、目が県の教育委員会、あるいは市の教育委員会、で、一方で、私も結構発

言しますので、私を向いたりとかしているわけですよ。そうすると、子どもに向き合う時間よりも書類に向き合う時間が長くなっているということなんですね。

ですので、これはうちの浦郷教育長はすごく立派な方で、市の教育委員会には、もう文書で報告は要らんと。（発言する者あり）えっ、ということなんですね。

だからね、書類に向き合うより、もう子どもに向き合ってくれということと、やっぱり確かに学校の先生が、本来の教育内容以外にしなきゃいけない雑務というのが多過ぎるんですよ。ですが、もうそこも学校の先生はやっぱり真面目ですもんね。真面目なんで、そこはうまく割り切りの、ここまではもういいよというのを、これは教育委員会から言ってもらおうと思って。だから、県の教育委員会にも、もう報告は要りません。もうね、本当に書類多過ぎです。多過ぎなんでね、そこは我々もしっかり入って、なるべく先生たちのそういった意味での負担は、やっぱり減らしていこうということは、本当にそこは思います。

それと、もう1つ大事なのが、やっぱり家庭なんですね。昔と比べると、学校に対する欲求というのが高過ぎる。ですので、どうしてもやっぱりもう少しお任せというのでね、あとは家庭は家庭で、こういったことはもうやるからというようなのをしないと、本当に今、現場にしわ寄せが行っていて、現場にしわ寄せが行くと、そのしわ寄せが子どもたちに向かいますもんね。ですので、そこはしっかりやっぱり考えていきたいなど、このように考えております。

○議長（杉原豊喜君）

11番上野議員

○11番（上野淑子君）〔登壇〕

市長がおっしゃるとおりだと思います。

現場の先生になってみたら、上からは言われ、それはきちんとしなくてはいけない。今はまた昔と違って、家庭もしっかり先生に言う、「何でうちの子を見らんか」と。板挟みになった先生方の苦勞っていうのは大変だと思います。だから、先ほど言われたように、私が現役のときとは大分違う。あのときは40人、50人おりましたけれども、そういうことはあんまりなかった。今はいろんな機械を使って、効率的になって時間があるとおっしゃるけれども、問題がふえた。

そのころ、全国的にいじめで自殺をするというニュースはほとんどありませんでした。私たちは考えたこともなかった時代です。そこがなぜなのかということなんです。でも、市長はそこら辺、わかっているようです。だから、それを変えていくには、本当に教育長だけに言っても変えられないと思います。だから、教育長のほうから、これはお願いですけども、行政のほうからこういうふうなことを、文科省じゃないけど、こういうふうに言ってほしいというようなことを、やっぱり両方から言っていけないと文科省も変わっていかないと 생각합니다。

私も現役でおるときに思っておりましたけれども、教育現場というのは、普通のところじゃ——教育という、文科省とは別個になっている。だから、こう上、下もしっかりあるんじゃないかなと思いますけれども、本当にそこら辺をしっかり殻を破って、今市長がおっしゃったような教育化になしていかないと、どんなに子どもが減っても、どんなにIT化を使いながら効率化されていっても、大きな問題、命にかかわるといようなことが起きるといのは、一体どこなのかなと、今私たちは本当にこういう事件を真摯に受けとめて、今我が市にはないからこそ、対応を練っていかんばいかなとじゃないかなあと思っています。

1つこれは例ですけれども、新聞の記事でしたが、ちょっと読んでみますので聞いてください。東京都のあれです。

「いじめ・不登校教員増で改善」、教員増の対象校は、対象外の学校より全項目で改善の割合が大きかった。いじめが減ったのは、対象校で44.7%減った。対象外は20.8%であった。物すごく差があるということで、都教委は2010年、1クラスの定員上限を段階的に減らして、学級数をふやすことで配置する教員をふやした。増加数は2010年に40校で52人、2011年度は137人、本年度は146校で210人を増員した。それでもって、いろんなことを解消してきているということ、これは実際に上がっているんです。

本当にこうなってくると、財政面でも大変なことだと思いますけれども、思い切った施策をしないと、今言ったように、時代は変わって、現場というのはそんなになっているのに、なぜなのかというのを、根本的には本当に簡単なことですが、子どもと向き合う。早期発見もそれ以外にはないと思っておりますが、市長、この記事について見解を。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

やっぱりね、教職員さんが足りないという認識は私も持っています。持っているんですが、ただ、じゃあ一律にふやせばいいのかということについては、それはそうは実は思わなくて、例えば、今で言うと私もそう言われるかもしれませんが、多動性の子とか、アスペルガーの子とかね、そういったのに、今一般の、うちの妹もそうなんですけど、先生がこう対応している状況にあるじゃないですか、一定程度の子はね。ですので、そういった子をきちんとアシストするというような、これは教諭の免許を持っているかどうかは別にして、そういう人たちが必要なんじゃないかなと。だから、本来、ティーチャー、学校の先生がそういったことに、そりゃ大事じゃないとは言いませんけれども、自分の専門以外で対応しなきゃいけないというので、非常に今ストレスが、負荷がかかっているというのは僕も聞いているんですね、県の教育委員会、市の教育委員会からも。ですので、そこをうまく手当てをするという人材が、日本だとやっぱり少な過ぎるんですよ。

例えば、セバストポール、武雄の姉妹都市のね。これは杉原議長からも聞きましたけれ

ども、やっぱりそこはきちんと手当てされているんですね。ですので、そこの手当てというのは、必ずしも学校の先生じゃないんですよ、その手当てするのは。地域の人だったり、NPOの方だったりするわけですよ。ですので、そういう総参加型の何か対応の仕方というのがあるのではないかなど。ただ、これね、文部科学省がうるさくて。もう本当にしゃくし定規ってというのは文科省のためにあるようなもんですね。ですので、そこはやっぱり、僕は地域主権という言葉はあんまり好きじゃないんですけども、地域によって認めさせるように、我々は教育の現場でも地域の独自性ってあってしかるべきだと思うんですよ。ですので、そこについては我々も声を上げていくと。

長くなりましたけれども、文科省がけしからんと僕が思っているのは、沖縄に僕がいたときに、担当していたときに、校舎、全部南側にしなきゃいけないんですよ、南側。設置のときも、基本的にはね。沖縄で南側にしたら、みんな日射病になりますよ。ですので、そういうのが全国一律まかり通っていたんですね。それは大分改善されましたけど。ですので、それも、やっぱり地域から声を上げなきゃいけないということですので、こういうのは必要なんだということについては、ぜひ議会からも後押しをしていただければありがたいと、ね、教育長——と、うなずいております。

○議長（杉原豊喜君）

11番上野議員

○11番（上野淑子君）〔登壇〕

本当にそう思います。だから、私たちもですね、今おっしゃったように文科省型、そうじゃなくて、こうしたほうがいいというのを市長を中心に、我が市から変えていっていただきたいと思っております。

次の質問に移りたいと思います。

次は、幼児教育の見解についてですけども、今、私がいつもここに立ったら、「北方幼稚園やろ」と言われたりします。で、幼稚園教育、それから、いつも言っている障がい児、弱者の教育、たんぼぼ教室、そしてまた、今、これはもう議会でも発表されましたが、武雄保育所の改築ですね、その3つについて、どういう方向になっているのかな、何遍も何遍も聞いていますので、方向をお聞きしたいなと思っておりますが。

まずは——その前にごめんなさい。うろうろしてすみません。その前に幼児教育について、市長はどういうふうな考えで、我が市の保育園、幼稚園、幼児教育というのを進めていきたいかということ、私、そこをお聞きしたいと思っておりますが。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

私は基本的に、ここは山口裕子議員さんとも、よくここの分は話をするんですけども、

あんまりゼロ歳児とかっていうのは、僕はちょっといかんと思っているんですね。なるべく親と触れ合う、少なくとも母親とやっぱりしっかり触れ合うっていう時間が必要だと思っています。

我々のときは3世代だったんで、親が共働き、僕のところも共働きだったんですけれども、そのときはうちのじいさん、ばあさんが面倒を見ていたということで、あるいは地域の人たちが面倒見ている。だから、この前亡くなられた吉川さんのお父さんから、私、相当こづかれました——かわいがられましたので。だから、そういう地域がしっかりサポートをするというのがあったんですけど、今それを30年前のこと、40年前のことを求めても、それは無理なんで、そこはやっぱり保育所なり幼稚園というのがきちんとケアをしなきゃいけないということは、そこは思っています。

ですので、全面的にお任せ状態というのは、それでも僕はだめだと思っています。親のかわりが保育園とか幼稚園ができるというのは絶対思いませんので、その部分というのの兼ね合いは絶対に必要だと。それを前提とした上で私が思うのは、あれを見せられますかね。

(モニター使用) これは多久市のさくらんぼ保育園なんですけれども、これは実は夏なんで、何というんですかね、あんまりこう野外には出ていなかったんですけど、一般的に言って武雄の保育園はもう室内で、屋内で、屋内過ぎ。(発言する者あり) うん。もっと武雄は豊かな緑とか豊かな、何ていうんですかね、あるから、もっと外に出してやればいいのになんということは本当に思います。これなぜかという、僕は大阪府の高槻市というところにいました。割と都会です。ですが、その保育園で、やっぱり人気のあるところは、大体あれですもんね、野山に行ったりとか、そこで川に行ってサワガニをとったりとかね、いろんなことをさせるわけですよ。それがやっぱり情操教育にすごくいいと。

武雄は高槻等と比べると、こんなに豊かな緑とか自然があるわけですよ。ですので、紫外線の問題とかありますけれども、もっと外に、土とか、そういう昆虫とか触れ合うっていうのが僕は絶対に必要だと思っていますので、ここは武雄の各保育園の足りないところだと思っています、一般的に言って。ですので、そこはやっぱり先進事例を見たほうがいいのかあと。

これは多久のさくらんぼ保育園なんですけど、こういう感じで。今もう砂場遊びもあんまりさせないじゃないですか、泥遊びもね。(発言する者あり)

うん、ですから、これはすごい安全面にもチェックして。

で、これは繰り返しになりますけど、夏はやっぱりどうしてもあんまり屋外に出さないですね、紫外線の問題とかこうあるんでね。だから、ちょっと日陰がすぐあるところで、こういった遊びをさせているというので、ほら園そのものが、もうそういう自然みたいになっているじゃないですか、こういうふうだね。だから、これはやっぱり僕は学ぶべきだということと思っていますので、そういう展開ができればいいかと、100%こうはというのは無理か

もしもかもしれませんが、なるべく多くこういうのを取り入れて、自然と触れ合うというのがすごく大事だということは思っております。ちょっと話がふくそうしてきましたけれども、そのように考えております。

○議長（杉原豊喜君）

11番上野議員

○11番（上野淑子君）〔登壇〕

ありがとうございました。

本当にそう思います。今、市長がおっしゃったような、外で自然と触れ合う、その中でいろんなことを育てていく、感性も豊かになっていく、私は本当にそんな幼稚園、保育園が欲しいなと思っております。それぞれの今ある保育園も、それぞれ工夫されて、いろんな教育をなされております。それが悪いんじゃないくて、今、市長おっしゃったように、そういうふうな自然の中で、今我々の周りにいっぱいある自然、これを生かした保育園だと思います。

今おっしゃったような保育園を市長が経営されると、大いに満員になるんじゃないかなと思いますけれども。（発言する者あり）

だから、そういうふうな市長の考えのもとに、今から言う武雄保育所もそのようになっていくのかな、北方幼稚園も、たんぼぼ教室もそうになっていくのかなと思ってお聞きしたところでございます。

では、武雄保育所について、今後はどのように計画をされているのか、具体的にお聞きをしたいと思っております。

○議長（杉原豊喜君）

蒲原こども部長

○蒲原こども部長〔登壇〕

武雄保育所の今後のことということでお尋ねでございますが、平成18年6月に策定いたしました公立保育所の役割及び管理運営に関する計画書を抜本的に今見直しをしているところでございます。できるだけ早く、案についての御意見を伺う場を設けたいというふうに思っているところでございます。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

これこそスピードは最大の付加価値だと思うんですよ。今この状況で議論、議論ばかりやっていると、武雄保育所に実際通われている園児さんとか、あるいは保護者の皆さんたちが気の毒。私も何度ももう行きましたけれども、やっぱりあそこはよくない。ですので、ここはいたずらに議論をすることは、僕はそれだけのベネフィット、価値が落ちると思っておりますので、年内に基本的な方針を出して世に問いたいと思っております。その上で、さまざま

まな御意見を議会、市民の皆様方から賜った後に、その方針を確定させて、実際の計画に入っていきたいと。

いずれにしても、先ほど部長からもあったように——なかったかな、豊かな自然ということをお我々もやっぱり出していきたくて思っていますので、そういう場所ね、場所。場所について、やっぱり早急に手当てをこうして行って、地域が、そして自然が支えてくれる保育園ということにぜひしていきたくてというふうに思っています。

その形態については、私はもう民営化だと思っています。なぜならば、やっぱり民の力をかりるところは民がいいです。病院だってそう、図書館だってそう。ですので、その上でどうしても民ができないところってあるんですね、例えば、後で質問あるかもしれませんがけれども、そこで障がいをお持ちのお子さんだっているわけじゃないですか。ここを民に任せるとするのは非常にやっぱりしんどいんですよ。ですので、そこは例えば、加配の部分については補助金を手当てするとか、あるいは、これはちょっとあり得るかどうかは別にしても、公務員の保育士はいるわけですよ。そこを加配するというのもあるんですよ。現に先進地の宝塚であったりとか、葛西であったりとか、高槻もこの場合そうです。そういうふうに、民の足らざる部分っていうのは官が補完をすると、公が補完するということになっていますので、私はぜひそういうふうにしていきたくて思っています。

今回、新しい形の武雄保育所については、一般の保育所とやっぱりそこは違って、たんぼぼの話もありますけれども、そこはちゃんと組み入れた上で、足らざる部分っていうのは、もっと伸ばしていく部分っていうのは、我々行政がしっかり支え、応援をしていくということにぜひしてまいりたいと、このように考えております。

○議長（杉原豊喜君）

11番上野議員

○11番（上野淑子君）〔登壇〕

本当、おっしゃるように、いつまでもだらだらだらだら論議詮議していったらどうしようもないと思っておって、今回は、たんぼぼ教室についても、北方幼稚園についても、きちっと方向性を示してもらいたくて質問を出しております。

武雄保育所については、年内に今、市長がおっしゃったような目的を持って、そして官から民のほうにということで、また我々もそこで意見をいろいろ言えることがあると思いますので、そこは言っていきたいと思っております。年内にということを守っていただきたいと思っております。

次に、たんぼぼ教室についてですけれども、たんぼぼ教室については、3月のときにはアンケートでもとってということでおられました。アンケートをもうとられて、私もいただきましたが、そのアンケートについて、市長どのお考えなのかをお尋ねします。

○議長（杉原豊喜君）

山田くらし部長

○山田くらし部長〔登壇〕

たんぼぼ教室を利用されています保護者の方に、ことしの3月にアンケートをとらせていただいたところでもあります。今お尋ねの部分では、一番最後に施設についてということで、施設の運営形態というふうなところでアンケートをとらせていただいたところでもあります。17名の保護者にアンケートをとりまして、そのうち13名の方が、現在のまま武雄保育所と併設がいい、4名の方は、ほかの保育所、幼稚園と併設がいいというふうな形になっておりまして、17分の13ということで、4分の3の保護者の方が現在の武雄保育所との併設がいいと回答をされているところでもあります。

先ほど出ました、武雄保育所の今後の運営方針といえますか、そこがことしじゅうに方針を出すということで先ほど市長は答弁いたしましたけれども、そういうふうに検討する中で、保護者ニーズの対応を第一に、利用しやすい施設を確保していきたいというふうに思っているところがございます。

○議長（杉原豊喜君）

11番上野議員

○11番（上野淑子君）〔登壇〕

保護者を第一に、利用している人を第一にということは本当によくわかります。でも、その保護者はずっとそこにいらっしゃるわけじゃなくて、次から次に子どもたちは出ていきますし、入ってきます。ですから、私たちは公平に見て、どうしたらいいかというのを先立って考えていかななくてはならないと思っております。

いつも申しておりますように、私は、先ほど市長もおっしゃったように、自然の中で、広いところでということで、私は北方幼稚園のほうに移して、あそこで伸び伸びということを提言してまいりました。そのことと、それからこのアンケートと、それから市長の考えとあわせた上で、市長はどのようにお考えなのか。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

これは確かにちょっと悩んでいて、アンケートのとり方がちょっと失敗したなと思っっているのは、現在の保護者だけ聞いたら、やっぱりそういう結果になるんですよ。ですので、例えばOBの親御さんに聞くとか、これからちょっと預けようと思っっている人までやっぱり広げないと、これはアンケートをちょっと失敗しました。

ですので、それを踏まえて言うと、先ほどの答弁に一部かかるんですけども、今のところの環境だと、トイレのにおいであるとか騒音とかっていうのはどうしてもやっぱりあり得るんですよ。あともっと心配なのは、やっぱり耐震です。なので、そういう意味でやっぱ

り安全・安心——そういった子こそ、安全・安心の一番最たるところに私は入れたいと、入ってほしいと思っていますので、どっちにしても移転をするといったときに、じゃあどこに移転をして併設をするかと、あるいは中に入れるかというのは、仮称ですけど、新武雄保育園なのかなということは思っています。ですので、あんまり今の場所から離れたところっていうのはあり得ないと思うんですね。今の武雄小学校の横のね。ですので、そこからあんまり離れたっていうところにはならないとは思いますが、もう少し駐車場もゆったりとれて、アクセスがしやすくってというところを期待をしています。

いずれにしても、今の状況っていうのは、先生たちは非常に頑張っておられます。これは本当に頑張っておられます。私も何人も話しますけれども、でもそれを支える環境は余りにも今貧弱だということですので、その環境の改善を、このアンケートの結果を踏まえてしてあげたいと、このように考えております。

○議長（杉原豊喜君）

11番上野議員

○11番（上野淑子君）〔登壇〕

そうですね、私は北方幼稚園のほうに、とにかく急いでということで、ずっともう言い始めて何年かになりますけれどもですね。やっぱり待っていては子どもたちは卒業してしまうし、次の段階に移っていきます。それで、とにかく障がいを持っている子どもさんたち、親御さんたちというのは本当に弱者です。表面に立って、こうしてほしい、ああしてほしいと言えない立場におられて、がんばってんね、ああばってんねと言っておられますし、子どもたちを見ていても、我々の表に出る元気で活躍する子どもたちの陰に、何となくこういらっしゃって、弱者として、それは私たちは本当にそこに目を向けていかなければならないと、本当にずうっと思っているのです。

年度内に武雄保育所のほうはめどがつくとおっしゃったけれども、市長は——市長いいですか。近くにとおっしゃったけれども、私は本当に子どもたちを一日も早く日の当たるところで、自然の中で、先ほど見せていただいた、私もここ大好きなんです。そこで、子どもたちを生き生きと生活させたい。じゃあ、そっちに移す案っていうのはもうないと思っていいいのでしょうかね。どうぞ。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

ここは本当に悩まない僕が悩んでいて、何人かお母さんと話をしたんですよ。障がいをお持ちのお子さんのお母さんと話をしたとき、あるいはその専門家とも話をしました。そのときに、確かに環境は北方幼稚園のほうがいいんですよ、それは本当にいい。しかし、一方で今、武雄小学校に併設しているのは意味があって、なるべくほかの子どもたちと一緒にって

というのが、実は教育の——釈迦に説法なんですけれども、一つの方針なんですよね。ですので、今、たんぼぼの子がどういう状態になっているかという、武雄小学校の児童が声をかけたりとかしているんですよね。あるいは武雄保育所のほかの子がたんぼぼの子に声をかけたり、こうしている。私も何度も見ました。

ですので、そういった交流っていうのが求められるのではないかと、専門家の方とか先生とか、あるいは、もう1つ言われたのは、やっぱりお母さんたちがそれを望んでいるんですよね。ですので、北方幼稚園でそれが確保できるかと。だから、僕はさんざんさっき武雄保育所をいろいろ悪く言いましたけれども、1ついいのは、これは偶然の産物ですけど、武雄小学校に併設しているというのが、すごくそこはいいと、交通とかは別ですよ。子どもたちと同じ敷地にあるっていうのはいいっていうようなお声も聞きますので、そこはだからその分が、やっぱり北方幼稚園のように担保できないじゃないですか。環境という意味では、ハードという意味ではすごくいい。アクセスもすごくいい。しかし、周りの環境と言ったときに、ほかの、例えば、児童とか生徒とか触れ合うっていうのができるのか、北方小学校っていうのがあるんですけど、そこについては、ここの部分は実際、保護者にやっぱりちゃんと話を聞いてみなきゃいけないなということは思っています。

ですので、行く行くはですよ、どういう報告書が出るか私もまだ見ていませんので、今予断を持って言うことはできませんけれども、確かに議員さんがおっしゃるように、ねえ、どんなに頑張っても、できるのは2年後とかになるわけじゃないですか。ですから、その間ということについては、今据え置きになっちゃうわけですよね。だからその間、例えば北方幼稚園というものはあるかもしれないですが、ですが、そこは保護者の皆さんの御意見を、その部分はもう一回ちょっと賜うことができればありがたいというふうに思っております。

何言っているかわかんなくなりましたかね。

〔11番「うん、わかりました」〕

○議長（杉原豊喜君）

11番上野議員

○11番（上野淑子君）〔登壇〕

何回もですけども、本当に移さないなら移さないで、それ相応の望むたんぼぼ教室ができれば私はそれでいいんです。とにかく子どもたちを何とかしたい。ここ二、三年のうちですけど、二、三年の間に卒業して、支援学校に行く子どもたちもいっぱいおると思います。ですから、本当にもう会ってみられたらわかると思います。

それから、1つ問題を、交流ということ、それは私たちも十分に考えているところです。北方幼稚園は幸いなことに4歳児と5歳児だけです。物わかりがある子どもたちですので、交流もうまいとこできます。小学校は近いし、もう行ったり来たりも多分できると思うんですよね。

私が本当にこれを真剣に考えるようになったのは、ある子どもが本当にここで市長の考えで、普通教室に、北方幼稚園のほうに移していただいて、1人つけていただいて、そこでどれだけ成長したかというのを私が見ているものですから、ああ、こんなに変わるなら、ここにもういつとき、ちゃんとなつまでこけおらじにじゃなくて、少しでも早く、一日でも早く、そういう状況に私はしたいなと思ってですね、もう何度も何度もお願いをしているんですけどもね、幸いな方向に進んでいくことを楽しみにしております。

では、次に最後です。北方幼稚園についても、もうこれで最後だと思いますけれども、幼稚園については平成24年度までは募集するというのを聞いております。じゃあ平成24年度以降、どのような方向に進まれようとしているのか、方向性のみを知らせてほしいと思います。

○議長（杉原豊喜君）

古賀教育部長

○古賀教育部長〔登壇〕

北方幼稚園につきましては、人数が大変少ないということで、方向性につきましてはいろいろ検討してきたわけです。2年前の平成22年度が保育している子どもたちが、通園している子どもたちは22名でした。ことしの4月は32名ということで10名ほどふえているという状況でもございますし、まだまだ希望されている保護者の方もいらっしゃいますので、来年度に向けましては募集をしようということで考えておりますし、今後につきましても、武雄保育所の問題もございますし、たんぽぽ教室の問題もございます。そういったいろんな面を含めまして検討させていただきたいというふうに思っております。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

先ほどは本当にすみませんね、たんぽぽの答弁がちょっとわかりにくかったと思うんで、もう一回ちょっと整理してお答えしますと、今のままはもう絶対よくないですよ。それは議員さんと認識は同じです。その上で、今、中で話しているのは、3つちょっとパターンを考えていて、1つが、今度新しくできる武雄保育園に併設をさせるというのが1案。2案が、あそこの北方支所の隣の子育て総合支援センターっていうところに置くというのが2案。3案が、これは順番は優先順位じゃないですよ。3案は、上野議員さんがおっしゃるように、北方幼稚園に、中に入れるか併設するかは別にして、北方幼稚園の機能に追加するという事で、以上3案で今議論を中でしているんですね。ですので、そこはちょっともう少し時間をいただければありがたい。

これは上野議員からの質問でも、本当にそこはよく、今の状態を早く改善しなきゃいけないというのは重ねてよくわかっていますので、年内にその方向性、方針についてもはっきり

明記をしていきたいというように思っております。

私、個人的に言えば、これは市を代表する立場じゃなくて、個人的に言えば、私は北方幼稚園がいいと思っています。それは小学校に近いということも含めて思っております。ですが、これは万機公論に決すべし、専門家の意見とか、いろんな意見を聞いて、今度は市を代表する立場で、また議論をさせていただければというふうに思っています。いたずらにこれは議論をとるということは考えておりませんので、そこはぜひ御理解をしていただければありがたいと、このように考えております。

○議長（杉原豊喜君）

11番上野議員

○11番（上野淑子君）〔登壇〕

年内にということ聞いて安心しました。どうぞいろいろ議論をなさって、子どもたちにいいように進めていただきたいと思います。

では、次に移りたいと思います。

次は文化遺産の活用についてお尋ねをいたします。

本当に私は北方町久津具という小さな部落におります。せんだっては、盆踊り大会とか、それから浮立とか、いろんなことがあっております。またおくんちも近づいてきて、浮立の練習に子どもたちも熱心に通っております。

そのとき、あるいろんな——小さな部落からの問題でございますが、「もう子どもたちが減ってされんごとなったばい」て、「どっからか雇うてこんぎされんごとなった」。それから、「教えている人たちがもう80歳過ぎて高齢になって、指導する人がおらんごとなったよ。でも、この文化というのは絶対残していかなばいかん」て、この伝統芸能っていうのはですね。「そいぎどがんして残していくぎよかろうか。何じゃい市としての手立てのああや」とか聞かれます。本当に、それは目の前に子ども浮立なんかでも、私は毎回近づいてくるたびにそういう声を聞くんですよ。

だから、市としては、やっぱり伝統がない、文化がないところには人間も育ってはいかないと思います。そういうふうなことを把握された上で、どのように考えを持っておられるのかをお聞きしたいと思います。

○議長（杉原豊喜君）

白濱教育部理事

○白濱教育部理事〔登壇〕

ちょっと画像ですみません。

申しわけございません。市内の指定重要無形文化財としては、こちらに掲げておりますように、画像が出ないですね。

（モニター使用）国指定としては、武雄の荒踊、中野・宇土手・高瀬の荒踊ですけど、で

1件でございます。県の指定としては2件、真手野の舞浮立、船の原のかんこ踊。それから、市の指定物件としては6件、大日の皮浮立、袴野面浮立、武雄くんちの流鏑馬行事。

〔市長「あんまりすっぎ、動画で言わるっぞ」〕

はい。そうですね、それがあっております。

市は9件、11団体が保存団体として活動しておられます。指定を受けておられる団体につきましては、市から運営を補助するための補助金を毎年支出しております。

今、議員御指摘のように、浮立とか祇園を初め、各地域における伝統芸能については、後継者を育成するというのが大きな課題となっております。特に育成の担い手となる若い世代の就労形態が非常に複雑多様化しております。地域の祭りに参加することができず、人集めに苦労されているのが実態であります。

このような各団体が抱えておられる伝統芸能に関する課題や事例などをお互いに情報交換することで、さまざまな課題を解決していただこうと、そういうきっかけにさせていただこうということで、平成16年度に武雄市伝統芸能保存連絡協議会を設立して、毎年2回程度開催をしております。現在16の保存団体が加入しておられますが、未加盟の団体にも加盟を働きかけたいというふうに考えております。

○議長（杉原豊喜君）

11番上野議員

○11番（上野淑子君）〔登壇〕

たくさんのいろんなやっぱり伝統を引き継ぐ、継承していくための努力をされていると思いますが、16団体についてはこうありますけれども、ほかの小さな団体なんかも、どういうふうにしていけばいいのかなと思っておりますが。

じゃあ、この16団体については、どのような国の補助とかなんとかがあるんですか、具体的に何かわかりますかね、継承していくためのどういうふうなあれがあるものなのか。

○議長（杉原豊喜君）

白濱教育部理事

〔11番「ごめんなさい。今年度はこういうふうにしていきたいとか、そんなのがあるかどうかお聞きしたい」〕

○白濱教育部理事〔登壇〕

（モニター使用）指定を受けている団体については、市から運営補助をしておりますけれども、そのほかの団体を含めて、今年度文化庁の補助を受けまして、武雄市ふるさと文化・歴史再発見事業というのを取り組まれております。これは武雄の古きよき文化・歴史を再発見する協議会というのがございまして、文化庁の補助事業を活用して、地域の文化遺産を再発見して、地域の活性化や観光振興を図ろうという分で、平成24年度から平成26年度まで3カ年事業でしております。今年度は3分野、8事業について794万4,000円の文化庁の補助事

業の交付が決定されております。

今、ごらんいただいておりますように、全般の事業として3事業予定しておりますが、そのうちの1つの事業としては、武雄鍋島家の関係の文化財調査活用事業ということで、そういう文化財についても、デジタル化をしたいということで、iPadやスマートフォンなどのモバイル系をつかって閲覧できるようにして、そういう文化財に対する認識を深めるとともに、こういう我がまちの、そういう様子等、江戸時代の映像を比較しながら散策できるものと、そういう事業が1つありますけれども、民俗芸能関係につきましては、今度秋の民俗芸能奉納ツアーというのを9月22日と23日に2日間行います。また、武雄市伝統芸能祭りということで、これは第2回になりますけれども、物産祭りの会場で11月17日に開催します。またそのほか、民俗芸能の記録撮影とか用具等の更新も行う予定でございます。

あと、この中では、体験事業としまして、子どもたちを対象とした日本の伝統文化を体験してもらおうということで、生け花とか日本舞踊、浮立などの伝統的な文化を子どもたちに体験してもらおう事業が7教室開催されて、それぞれの成果の発表をってもらう教室も計画をしております。

○議長（杉原豊喜君）

11番上野議員

○11番（上野淑子君）〔登壇〕

いろんな方面で補助金を使いながらしていらっしゃると思います。

1つ質問ですけれども、先ほどの話の中でデジタル化をしてということがありましたが、こういうふうなのをデジタル化して、どのように利用していくのかなと思っております。

○議長（杉原豊喜君）

白濱教育部理事

○白濱教育部理事〔登壇〕

〔11番「どこで、どのように」〕

すみません、ちょっとお願いします。

（モニター使用）3カ年事業の中で、ことし考えておりますのは、武雄町を中心にして古い絵図をそういうデジタル化するというので、ここに書いてありますように、古い絵図が今たくさんございますけれども、それをデジタル化して、現在の町の様子とあわせて散策してもらおうということで、そういう観光面とか地域まちづくりに活用できるような、そういうデジタル化をこの事業の中でさせてもらっております。

○議長（杉原豊喜君）

11番上野議員

○11番（上野淑子君）〔登壇〕

デジタル化については、なかなかぴんとこないんですけど、いざそのときになると、詳し

く使い方なんかも説明があると思いますので、私たちも使っていきたいと思っております。

では、このように16団体、指定された団体については、いろんな補助があったり、こういうことがあったりと、どんどんどんどん活躍されるんですけども、じゃあ今、私が冒頭に言いましたような小さなそういうところ、継承して教えていく人が年とって教えられなくなった、浮立を続ける人数が足りなくなった、そういうところにはどういうふうな手を差し伸べていらっしゃるでしょうか。どうしたらいいんでしょうかね、この地域によっては。

○議長（杉原豊喜君）

白濱教育部理事

○白濱教育部理事〔登壇〕

先ほど16団体と申し上げましたけれども、今、武雄市伝統芸能保存連絡協議会の中に、これまでの団体以外にもいろんな団体、各伝統芸能を守っておられる地域がたくさんございます。先ほど申し上げました、この武雄市の伝統芸能の祭りの中にも、16の加盟団体以外にも発表してもらおうよというということで、それに参加団体を拡大しながら、それぞれ地域の中で掲げる課題というのがそれぞれございますけれども、お互いにいろんな工夫をされているところがたくさんございます。

そういうのの情報化を踏まえながら、地域の中で役員さんがいろいろ頑張っていたということ、ぜひ地域の皆さんについては積極的に地元の祭りの担い手として参加していただくと。それから地域の住民の方については、こういう発表会とか地域のそれぞれ伝統芸能の祭りの中に、別に自分の地域以外も含めて、ほかの祭りを見ることによって、自分たちの祭りのよさを再認識して後継者を育成とか、そういうののぜひ応援をしていただくということが大事かなというふうに思っております。

○議長（杉原豊喜君）

宮下つながる部長

○宮下つながる部長〔登壇〕

市民協働課のほうでコミュニティー助成、宝くじの助成事業というのを持っております、そういう郷土芸能の鐘とか、いわゆる浮立の道具であるとか、衣装とか、こういうことへの助成ということを担当いたしております。

私の体験例を申し上げますと、私どもの地域では、鐘の新調ということ、当時の区長さんが立案をされて、それをきっかけに私ども若い者を集めて浮立の練習をするというきっかけづくりにされた実例がございます。

こういう先ほどの、どこかに出演をするとか、あるいは用具を新たに新調するとか、こういうきっかけをつくることによって、後継者づくりが進むのではないかというふうに思います。

○議長（杉原豊喜君）

11番上野議員

○11番（上野淑子君）〔登壇〕

ありがとうございました。今お聞きの行政からの返答について、テレビを見ていらっしゃる方も、これからそれをいっぱい利用して継承していきたいなと思っております。

では最後の質問になりますが、これも何回も言っている質問ですけれども、産業遺産の保存について、修復についてということで出しております。

これは前にも一般質問でももう言いましたように、北方町西杵炭鉱の工具、それから建物についてのことでございますが、前回は何とかしてテントでも張ろうかなというような答弁をいただいておりますが、そのままになっておりまして、もう何年かたちました。

現在の状況をごらんください。

（モニター使用）これはケーブルの立っていた鉄塔なんです、ケーブルとかですね、いろんな——今はこんな状態になっております。私も北方ですので見に参ります。それから長崎街道散策というのは、よその町からもよく来られるんですけどね、よくここを回っていかれるときに、「こがんしよったら案内されんて。何でがんしとっか」とか言われるということです。

本当にこれを立てるとか、いろんな方法があると思っておりますけれども、我々北方町民にとっては、大切な産業遺産です。だから、これを見て心痛めている人もたくさんいらっしゃるんですね。なぜあのときにシートでも張ろうかなとおっしゃったのにできなかったものなのか、今後どうしていきたいのかお聞きしたいと思っております。

このままでは危ないんです。ここは、北方公民館それから西体育館の裏手のところであって、子どもたちも通ります。市有地が、公用地でしょうけど、ここに広くフェンスはしてありますけれども、みんなもう草ぼうぼうで危ないんです。危険ですので、今後のことについてお聞きしたいと思っております。

○議長（杉原豊喜君）

白濱教育部理事

○白濱教育部理事〔登壇〕

（モニター使用）北方の石炭資料につきましては、昭和47年の西杵炭鉱閉山後、明治鉱業から佐賀県へ寄附をされております。現在、県の所有となっております、昭和50年に石炭資料の保管に関する委託契約が当時北方町と県との間で交わされ、町が管理して県が管理費を支出しておりましたが、昭和57年に管理費も町が負担するよう変更契約がなされて、その内容が現在まで引き継がれております。

これまで県と協議をしてまいりましたけれども、資料を市へ移譲することについては前向きに検討するが、修理費などの費用については県では負担はできかねるという回答でございました。

現在、150点に及ぶ石炭資料については、台帳を正式管理して一部こちらのほうの、きたがた四季の丘、石炭資料館のほうに展示をしております。今後、全ての石炭資料を県から譲渡していただいて、活用できるものにしていかなきゃならないというふうに思っております。

今、議員さん御指摘の、北方西体育館裏にある大型機械類の取り扱いについては、次の3つの方法が考えられるんじゃないかということで思っております。

1点目は、塗装して現地で展示する。この場合は、全て塗装して、保存に必要な屋根の設置とか鉄塔を建てるというのは、非常な強固な基礎と破壊防止のための設備や説明版なども、工事費が約1,000万円以上かかるというふうに見込まれております。また、維持のための塗装が数年単位で必要となって、展示場所としても適当かどうかということですね。

2点目は、塗装して新たな場所に展示するということになりますけれども、これについても先ほどの工事費とか移転費用が加わる上に、どこに展示するか、場所問題が課題としてあります。

3点目は、老朽化が進んでおって、安全のために撤去すると。この場合は北方町で先ほど言われたように、北方町の産業遺産として特別な思い入れのある方もたくさんいらっしゃいますので、その方たちの意見も必要であると。

この以上の3つのうちでどの方法がいいかですね。また、ほかにいいと思われる方法があるのかどうかというので、それは地元の皆さんの意向も踏まえて結論を出していきたいというふうに思っております。

○議長（杉原豊喜君）

11番上野議員

○11番（上野淑子君）〔登壇〕

（モニター使用）今、3つの方法と言われましたので、金額も、聞かれて皆さんも、私も驚きましたけれども、1,000万円かかるということで、それだけの価値があるかどうかというのをしっかり見きわめとってくださいということを行政のほうに私もお願いをしておりました。

私たち住民にとっては、大切な産業遺産ということをしっかり思っておりますけれども、本当にそういう方面から見たときに、残すべきなのか何なのかをきちっと調べて報告してくださいということを言っておりましたので、今のような案を出されたと思います。

それで、これもさっきの幼稚園の話じゃないですけども、年々年々だらだらだらだらしていったら、これがもうこうなるばかりで、もうどうしようもないんです。中にはもう鉄板が穴がほげたともあつとですよね。そしたら、これを磨くにしても何百万と、いろんなことがかかるということも、私は私はなりに調べて聞いております。

本当に安心で安全なために、私たちがどうしても残したいという気持ちはあるけれども、安心・安全のためにはどっちがいいのかなと言うときに、もしこの1、2、3案については、

もう今年度中には計画を立てて報告をされると思いますけれども、もし3番の安心・安全のために撤去をするとなった場合には、私たち、これを産業遺産としてという、私たちの気持ちを酌んでいただいて、せめてこれだけは要求をしておきます。草をきれいに払う、そして写真としてパネルとして残して、せめて残していく。そこまではしてほしいということを希望しておきます。

年内には、また12月の議会では、きちっと報告はあると思いますが、これは本当に長引かせてはいけないことだと思っております。本当に聞かれたんですよ、「この前シートかぶすって言うたろうが。なしせんやったか」ということをです。それだけ皆さん思っていられる人が、何人にしろいらっしゃるってことですよね。だから、文化遺産とか産業遺産というのは、今ここで何になるとかなんとかじゃないと思います。文化とかいうのは長い目で見ていかななくてはならないと思いますので、この3つの案の中で、どうぞ熟慮されて、3番目になったときには私たちの願い、草を払う。写真としてパネルとしてきちっとして保存をする。（発言する者あり）

話すんならですよ。私も本当は残してほしいんです。1,000万円かける価値があるかどうかというのは、私はわかりませんので、それは行政で専門できちっと調べていただきたいと思っております。

○議長（杉原豊喜君）

浦郷教育長

○浦郷教育長〔登壇〕

ここ数年、非常に今の草ぼうぼうのところの写真見せていただきまして、非常に行き届いていなかったところはおわびをいたしたいと思っております。

資料館で「^{やま}鉾山のにぎわい」という企画展をさせていただきました。それから全国あちこち、全国いっぱいじゃありませんけれども、数カ所石炭資料館等もありますので、実際に見せていただいて何を残さないといけないのかと、そしてまた我々の生活のつながりの中で、この文化的な価値というのをどう生かしていくかというのは、ずっと気にしながらきていたわけであります。

先ほど理事のほうから説明しました、この文化庁の事業の中に、そのミュージアム関係の事業もありましたので、それでどうにかできないかなどというのも実は検討したりもしてきた経緯がございます。ただ、いずれにしましても、あのままの状態というのは許されるものじゃありませんので、お話ありましたように対処していきたいというふうに思っております。

○議長（杉原豊喜君）

11番上野議員

○11番（上野淑子君）〔登壇〕

では、教育長の答弁のとおり、短い時間に、期間内に、どうぞ許されるべきことではない、

このような処置を改善していただきたいと思っております。

では、私の一般質問を終わります。

○議長（杉原豊喜君）

以上で11番上野議員の質問を終了させていただきます。